会　議　要　旨　書

会議名	第３期三鷹市生涯学習審議会第５回定例会 第 32 期三鷹市社会教育委員会議第５回定例会
日　時	令和４年６月 28 日（火）　18 時 30 分～20 時 30 分
場　所	三鷹市生涯学習センターホール
出席委員 （17 人）	田中雅文　矢崎喜美子　齋藤智志　廣瀬圭子　青木玲子　生田美秋　鎮目司 倉田清子　小林七子　佐伯友　和田光広　進邦徹夫　今村範子　冨澤昌人 太田みつこ　江口聡　遠藤弘子
欠席委員 （３人）	鈴木弘七　高橋伸　並木茂男
行政職員 （10 人）	スポーツと文化部長　大朝摂子 スポーツと文化部調整担当部長・生涯学習課長　髙松真也 総合教育政策担当部長・教育政策推進室長　松永透 スポーツ推進課長　平山寛　三鷹市立図書館長　大地好行 生涯学習課主査　下原裕司　同主査　三内紀子　同主任　中西崇郎 同主事　齊藤満里奈　同主事　笹尾梨良
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	３人

１　委嘱式

スポーツと文化部長より、新任委員へ委嘱状の交付を行った。

２　開会

（事務局より委員の出席状況、傍聴者の有無、会議要旨の公開について報告し、 配付資料の確認を行った 。）

３　議題

(1) 社会教育関係団体補助金の支出について

【会長】社会教育関係団体補助金の支出について、事務局より説明をお願いしたい。

【スポーツと文化部調整担当部長】社会教育関係団体補助金の支出については、社会教育法第 13 条に定められている「社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、社会教育委員の会議等の意見を聴いて行われなければならない」という規定に基づき、社会教育委員の皆様にご意見をお伺いするものである。

（総合教育政策担当部長より、三鷹市公立学校ＰＴＡ連合会への補助金の交付について、構成、趣旨・目的、活動内容、補助金額を説明した。）

【会長】ご意見はあるか。

～委員からの意見なし。
(2) 自主グループ講師派遣事業の講師等変更について
【会長】自主グループ講師派遣事業の講師等変更について、事務局より説明をお願いしたい。
【事務局】自主グループ講師派遣事業については、４月 15 日の定例会で委員の皆様にご意見を伺い派遣団体を決定したが、１団体から変更の申込みがあったため、自主グループ講師派遣事業実施要領第７条第２項に基づき、委員の皆様にご意見を伺う。変更内容については、資料３のとおりである。
【会長】ご意見はあるか。
～委員からの意見なし。
(3) 「生涯学習プラン 2022（第２次改定）」の実績報告及び検証について
【会長】「生涯学習プラン 2022（第２次改定）」の実績報告及び検証について、事務局より説明をお願いしたい。
【スポーツと文化部調整担当部長】「生涯学習プラン 2022（第２次改定）」の検証については、５つの重点事業の目標指標の達成状況及び実績をもって行っている。各担当課長よりご説明する。
ア　三鷹中央防災公園・元気創造プラザを拠点とした生涯学習の推進
【スポーツと文化部調整担当部長】生涯学習センター及びＳＵＢＡＲＵ総合スポーツセンターを拠点とした生涯学習の一層の推進並びに令和元年度から取り組んでいる施設の総点検についての項目である。
令和３年度の実績は、生涯学習センターの利用者数が 44,681 人、ＳＵＢＡＲＵ総合スポーツセンターの利用者数が 316,196 人であった。令和２年度比でかなり増となっているが、平成 30 年度実績の約６割程度となっている。新型コロナウイルス感染症に伴う施設の臨時休館及び開館時間の短縮、利用人数の制限等によるものと考えている。
生涯学習センターでは、市民の方からいただいたご意見を踏まえ、学習室の扉増設を行うとともに、講座受講料の支払いについて、クレジットカードによるオンライン決済を導入した。さらに、オンラインツールの使い方講座を開催した。
ＳＵＢＡＲＵ総合スポーツセンターでは、オンラインを活用した講座や、感染対策を徹底したうえで教室等を開催した。
施設の総点検では、これまでの取組で出された意見等を踏まえ、令和３年７月に「施設運営の基本的な考え方」をまとめ、複合施設から融合施設を目指していくことを掲げている。施設の各フロア間が縦に連携し、融合して情報発信を行うために、かけ合わせのテーマによる市民向けの情報発信動画を作成して、３月に公開した。
イ　「三鷹市スポーツ推進計画 2022」の推進
【スポーツ推進課長】目標指標のスポーツ活動を行っている割合については、４年に一度アンケート調査を行っている。スポーツ施設の年間利用者数（学校やコミュニティ・センターのスポーツ施設利用者を含む。）については、839,586 人であり、コロナ禍以前よりも減少している。
スポーツを通した「心と体の健康都市づくり」を実現するため、これまでは運動のきっかけづくりを中心に行ってきたが、令和３年度は運動習慣の定着へと事業転換を図る「スポーツを

通した健康都市づくりの基本的な考え方」を令和４年３月にとりまとめた。それに伴う事業として、ウオーキング、ランニング、三鷹体操、みたかダンスを中心に位置づけた。さらに、令和４年１月には、スマートフォンアプリ「タッタカくん！ウオーク＆ラン」の運用を開始した。

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会においては、無観客開催となったが、オンライン等を活用し、市民の感動体験及び市民に受け継がれるレガシーの創造を目標に取り組んだ。公道での聖火リレーは中止となったが、点火セレモニーや自転車ロードレース、三鷹市ゆかりの高橋侑子選手のオンライン応援イベント、チリ共和国のパラリンピック選手団と市民との交流を行った。

大会レガシーについては、三鷹地域連携会議からの「東京 2020 大会等に向けた三鷹地域連携会議　大会レガシーに関する提言及び活動報告書」の提出を受け、三鷹市としての大会レガシーに関する方針について検討を進めた。令和４年６月に三鷹市レガシー創造方針を策定し、子どもの感動体験やオリパラ精神に関する学びの充実、障がい者スポーツの普及、チリ共和国のホストタウン事業の積極的な展開などを含む７項目の方針を定め、取組を進めていく。

ウ　「三鷹市立図書館の基本的運営方針」の推進

【三鷹市立図書館長】目標指標の図書館の利用者数は 836,256 人、資料数は 971,933 点、貸出点数は 2,016,110 点、予約点数は 433,945 点、有効登録者数は 40,084 人であった。利用者数及び有効登録者数については、コロナ禍以前の数値には戻っていないが、それ以外の項目については順調に実績をあげている。コロナ禍における巣ごもり需要などで、図書館の利用形態が変わってきている。

また、移動図書館のステーションの見直しについては、北野情報コーナーを新設した。さらに、みたか電子書籍サービスでは 319 点の書籍を購入し、14,354 点の貸出があった。図書館フェスタやみんなみフェスタなどの大規模なイベントは中止したが、おはなし会や子ども向けのみたか寄席、科学あそびなどは、事前予約制にし、人数制限をしたうえで実施した。令和４年２月 22 日から３月６日にかけて利用者アンケートにより、点検・評価を実施した。

エ　「三鷹型エコミュージアム事業～三鷹まるごと博物館～」の推進

【スポーツと文化部調整担当部長】目標指標の大沢の里郷土文化施設入館者数は 9,524 人で、平成 30 年度の実績及び令和４年度の目標値と比較して多い数値となっている。コロナ禍であったが、大沢の里古民家で講座や体験学習等をできる限り実施してきたことや、私立を含む学校見学が多かったことが要因と考えられる。

大沢の里郷土文化施設及び三鷹歴史文化財展示室「みたかえる」を、三鷹まるごと博物館の中核施設として、様々な講座やイベントを開催するなど、事業展開を図ってきた。令和２年度に作成した三鷹まるごと博物館マップを活用して、ワークショップ形式の交流会を開催するとともに、マップに掲載されている場所を実際に歩いて回る「三鷹ふかぼりウォーク上連雀」を実施し、その様子を『みぃむ』４号に掲載して広く発信するなど、市民との協働による文化財事業を推進した。

また、大沢の里水車経営農家の老朽化に伴い、一部補強工事を実施するとともに、令和４年度以降の計画的な工事の実施に向けて、劣化調査等を行うなど、文化財の保護・活用を進めた。

オ　「スクール・コミュニティ」の創造に向けた仕組みづくり

【総合教育政策担当部長】三鷹市では、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を進めてきた。コミュニティ・スクールは制度であるが、スクール・コミュニティは学校を核とした地域づくりによってつながっていこうというムーブメントである。スクール・コミュニティ推進員は、設置して３年が経過し、地域と学校のつなぎ役を担っていただいている。令和３年度は、全市を対象に活動する関係団体との連携を図り、全市的なスクール・コミュニティを創造するため、スクール・コミュニティ推進会議を設置し、関係者間の情報共有を図るとともに、取組事例集の作成を行った。

また、令和２年度に教育・子育て研究所内に設置した「三鷹のこれからの教育を考える研究会」において、スクール・コミュニティの創造を含め、これからの目指すべき教育の方向性や取り組むべき事項などについて、令和３年８月に最終報告として提言を取りまとめた。それに基づき、具体的な施策を進めてきた。11 月には三鷹教育フォーラム 2021 において、オンラインで全国に向けて三鷹市の施策について発信した。

地域の共有地「コモンズ」については、議題(4)でご説明する。

【会長】ご質問、ご意見はあるか。

【Ａ委員】それぞれの実績報告だけではなく、それに対する評価、課題を提示することが、事業評価として必要であると思う。

【スポーツと文化部調整担当部長】今後は、記載の内容について事務局で調整したい。

【Ｂ委員】令和４年度の目標値について、令和３年度より増やしている事業と減らしている事業がある。減らしている事業については、コロナの影響を想定していて、増やしている事業については、コロナが終息するだろうという前提で計画を立てているのか。図書館では、これまで人数制限を行っていたとのことだが、今後、人数制限はどうするのか。

【スポーツと文化部調整担当部長】目標指標については、生涯学習プラン 2022 の第２次改定を策定した時のものであり、コロナ禍以前にたてた目標である。今後、第５次三鷹市基本計画の策定に向けて、コロナの影響を踏まえたうえで、どのような目標指標の設定をしていくか議論していく。

【三鷹市立図書館長】図書館の利用については、人数制限を行っているのではなく、少人数で短時間のご利用をお願いしており、当面の間は継続してお願いしていく。

【Ｂ委員】「スクール・コミュニティ」の創造に向けた仕組みづくりについて、後期は推進ということになっているが、「推進」だけだと評価がしづらい。今後、評価ができるような項目を考えていれば、教えていただきたい。

【総合教育政策担当部長】具体的に何を行うのかについて、教育委員会で決めることと、市民の皆様の活動との部分で指標化できるものについて、今後検討していかなければいけないと考えている。学校を核とした地域づくりとして、学校での活動に参加される市民の人数も指標の１つになると思うが、本来的にそれがコミュニティづくりにつながっているのかを追いかけるのは難しい。今後は、具体的な取組が見えてきたところで動きが出てくるので、その中でできることを探っていきたい。

【Ｃ委員】「三鷹市スポーツ推進計画 2022」の推進について、レガシーを受け継ぐために、今後具体的にどのようなイベントを考えているのか。また、イベント時にコロナ対策とあわせて

熱中症対策をどのようにしているのか。
【スポーツ推進課長】子どもの感動体験としては、三鷹市ゆかりのオリンピアン、パラリンピアンの体験教室を開催していく。障がい者スポーツとしては、ボッチャやパラ卓球、パラアーチェリー、車椅子バスケットの体験教室等を開催していく。チリ共和国のホストタウン事業としては、国際交流フェスティバルでのチリブース出展の支援や、日本とチリの国交樹立125周年として、俳句交流プログラムに取り組んでいる。
　熱中症対策として、各施設での水分補給を促したり、WBGT（暑さ指数）を計るために温度計を設置したりしている。ボランティアに対しては、熱中症対策講座等を開催している。
【Ｄ委員】三鷹中央防災公園・元気創造プラザを拠点とした生涯学習の推進に関して、複合施設から融合施設へとのことだが、これは市民から出た考えなのか。
【スポーツと文化部調整担当部長】市民参加の中でも、目的のフロアのみに行くという意見が出ていた。市としても、各フロアの専門性が強く、独立しているという課題を持っていた。その中で、各機能が融合する施設を目指すことを掲げた。
【Ｅ委員】「三鷹市スポーツ推進計画 2022」の推進に関して、令和４年からアプリの運用を開始したとのことだが、広報活動をどのようにしているのか。そして、今後どのくらい活用されているのかをしっかり検証していただきたい。
【スポーツ推進課長】ランニングやウオーキング、スタンプラリーなどを、アプリ上で２か月に１回程実施していく。アプリ上でイベントを実施することで、アプリを知っていただき、さらにランニングやウオーキングの計測機能もあるため、日常使いしていただき運動習慣につなげていきたい。
　広報については、イベントごとに広報みたかやツイッター等で周知している。年代によってはアプリが使いにくいということがあると思うが、現在はアプリの使い方講座などは実施できていないため、今後のイベントから実施していきたい。現在の登録者数は、600 件程である。今後、ウオーキングで延べ2,500人、ランニングで延べ2,000人の参加を目標としている。
【副会長】「スクール・コミュニティ」の創造に向けた仕組みづくりに関して、スクール・コミュニティは理念ではなくムーブメントであるとのことで、取り組まれている方の意識が発展していると実感した。スクール・コミュニティの実績については、数値化することも大事だと思うが、それよりも、どのような取組を行って、それがどのようにスクール・コミュニティづくりにつながったのかという事例を報告いただいた方が、皆さんとイメージを共有しやすいと思う。
(4) 学校３部制について
【会長】学校３部制について、事務局より説明をお願いしたい。
【スポーツと文化部調整担当部長】三鷹市では、スクール・コミュニティの創造に向けて、学校３部制の実現に取り組んでいる、この間、本審議会でもご質問をいただいており、今後の意見書の作成に向けて、審議会全体で共有していただければと思う。
（総合教育政策担当部長から、配付資料に基づき学校３部制について説明を行った。）
【会長】ご意見、ご質問はあるか。
【Ｅ委員】スクール・コミュニティは三鷹市の特徴的な取組で、何度も聞く言葉であるが、在

校生の保護者がコミュニティ・スクールやスクール・コミュニティについて、どれくらい理解があるのかを聞いていただきたい。また、学校は校長先生が経営を行っているので、学校にしかわからない問題や課題がたくさんあり、学校によってばらつきがある。枠組みだけが大きくなって、子どもたちの問題や課題が置いて行かれないように、教育委員会でもサポートしていただきたい。市内の子どもたちが同じように教育を受け、多様化している子どもたちの状況に応じられるように対応していただきたい。

【総合教育政策担当部長】第１部の学校教育では、個別具体的な学びを大切にし、誰一人取り残さない教育を進めていきたいと考えている。三鷹市では、コミュニティ・スクール委員会が設置されており、その中で各学校の状況について意見をいただいている。学校としては、子どもの教育が一番大切であるので、そこを忘れないようにやっていきたい。

(5) 「三鷹市生涯学習審議会・三鷹市社会教育委員会議の意見」の策定に向けた分科会ごとの議論について

（分科会ごとに、それぞれのテーマについて議論を行った。）

【会長】各分科会で出された内容について、簡単に報告いただきたい。

① 学びと活動の循環

【Ｂ委員】令和元年に出された「三鷹市生涯学習審議会・三鷹市社会教育委員会議の意見」に、必要なことはすべて書かれているので、これ以上意見を出そうとしても出てこない。そのため、この意見の内容がどの程度実現されているのかを検証することが必要である。検証して、実現を阻んでいる要因があるのであれば、それを取り除いていくことで、意味がある活動となっていくと思う。

② スクール・コミュニティ

【副会長】部活動において、勝利至上主義だけでなく楽しみたいというニーズもあり、それぞれのニーズに合った部活動の内容が実現できていない。部活動のあり方については課題があり、これからは部活動の概念やイメージを変えていくことが必要である。制度を待っていては遅いので、今困っている子どもたちを救うためにも、どのような提言をすることがよいかを話し合っていきたい。

③ 人生 100 年時代（子どもから大人まで）

【Ｃ委員】人財バンク「まちの先生」の利用状況や、令和元年の意見書における人生 100 年時代に該当する箇所の洗い出し及びその事業の達成状況について話し合った。様々な事業が実施されているが、その広報がうまくいっていないため、活用されていない。人財バンク「まちの先生」についても、５年間で約１万件しかアクセスがされていない状況である。今後は、事業を提言すると同時に、その事業をどのような人をターゲットにどのようなツールを使って広報していくのかというような、実効性の高い提言をできればと思う。

④ 新たなコミュニティ

【Ａ委員】地域のコミュニティの基本的な機能としては、防災、防犯、交通安全など、安全安心な地域づくりや美化活動、お祭りなどの地域住民の相互交流、高齢者の見守り、自然災害への備え、子どもたちの安全安心な環境づくりへの対応などである。町会・自治会、住民協議会

ともに組織の高齢化や固定化、担い手不足、活動の停滞が課題となっている。三鷹市は、コミュニティの創生に関して全国でみても先進的である。平成 23 年６月に庁内にコミュニティ創生検討プロジェクトが設置され、10 月には専門家を交えたコミュニティ創生研究会を組織している。それを踏まえて、庁内にコミュニティ創生課が組織され、コミュニティ政策の推進を図っている。令和４年３月には、「これからのコミュニティのあり方に関する基本的な考え方」をまとめていて、令和６年には、コミュニティ推進計画を策定予定である。我々の基本的な考え方は、生涯学習を基本として、人づくり、絆づくり、地域づくりを、学習を通してトータルに行っていくということである。現在、地域のコミュニティ創生で大きな課題としてあげられているのが、人財の育成、コミュニティ・センター施設の維持管理、市と地域コミュニティの関係をどのように整理していくかである。

競争と孤立ではなく、助け合い、高め合う近助、共助の理念のもと、暮らしやすい地域、いつまでも住み続けたい地域を目指すコミュニティを作っていきたい。そのためには、顔が見えることが基本であり、地域の中で趣味・教養・スポーツをやっているグループを大切にし、絆を生みだすことが大切である。

三鷹市では、1970 年代にコミュニティカルテの時代があった。それぞれのコミュニティが抱えている課題をカルテにして、それを検討するという活動である。それをもとに三鷹市基本構想ができた。現在は専門家を集めた委員会を組織しているが、もう一度、地域の人による地域のカルテ活動を再生したらどうか。

人財育成として、現在、NPO 法人子育てコンビニと三鷹市社会福祉協議会が、家庭訪問型子育て支援ボランティアのホームスタート事業を実施しており、40 時間の研修を経て、約 50 人のボランティアが活動している。地域コミュニティの担い手の育成についても、この考え方で育成ができるのではないか。

市民協働センターでは「まち活」に取り組んでいて、また、マチコエでは当初 400 人以上が集まり、部会に分かれて様々なテーマを議論している。これらは地域コミュニティの活性化の１つで、大きな核になりうると思う。

４　報告

(1) 第 53 回関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会が、令和４年 11 月 10 日（木）、11 日（金）に開催される。参加を希望される方は、事前に生涯学習課へ連絡をお願いしたい。

(2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第５ブロック研修会が、令和４年 11 月６日（日）午後１時 30 分から４時 30 分まで、武蔵野市にある武蔵野スイングホールで開催される。詳細については、別途ご連絡する。

５　その他

次回は、令和４年 10 月 28 日（金）午後６時 30 分から、生涯学習センターで開催予定である。

―閉会―